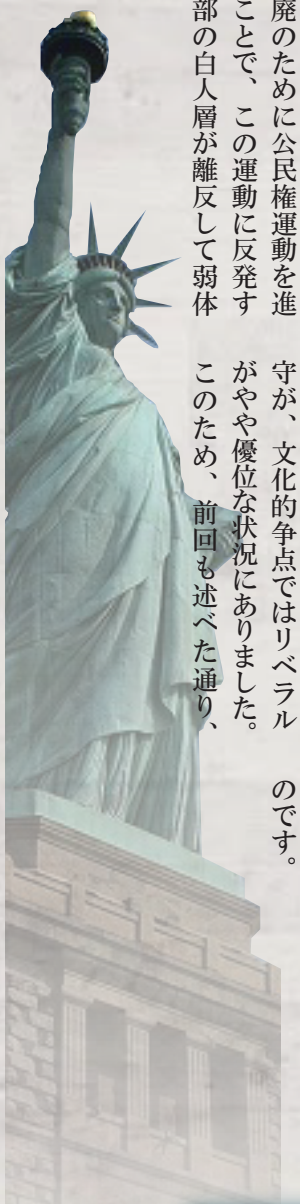
変わるアメリカと世界
トランプからバイデンへ

連載②

２大政党と４つの政治党派

和歌山大学経済学部 准教授
藤木 剛康（ふじき たけやす）



一般に、民主主義国の政治には「保守とリベラル」という対立軸があります。保守主義とは近代以前の伝統的な社会の考え方や制度、習慣を尊重する考え方で、これに対するリベラルは古い制度を不平等の原因とみなし、政府の力でこれらを廃止して近代化を進めていこうとする立場のことです。しかし、自由や民主主義などの近代の理念に基づいて建国されたアメリカの場合、保守とは個人の（政府からの）自由を優先する立場であり、リベラルとは自由や民主主義の実現のためにこそ政府の介入が必要だという立場になります。

１９２９年の大恐慌に際し、民主党のルーズベルト大統領は公共事業や社会保障制度、つまり「大きな政府」によって困窮者を救うニューディール政策を推し進め、これらの政策を支持する人々によるニューディール連合を形成しました。しかし、ニューディール連合は１９６０年代初めに民主党政権が黒人差別撤廃のために公民権運動を進めたことで、この運動に反発する南部の白人層が離反して弱体化します。また、１９７０年代のアメリカ経済の停滞に対して民主党は有効な対策を打てませんでした。１９８０年の大統領選挙で、共和党の候補だったロナルド・レーガンは「政府こそが問題だ」として、減税や規制緩和などの「小さな政府」による経済の活性化を訴えて勝利し、保守的な考え方を持つ幅広い人々を共和党の支持層として動員することに成功しました。

こうして、アメリカ政治では保守とリベラルの二大勢力が伯仲する時代が始まります。保守とリベラルの対立は「減税か（増税による）財政支出か」という経済的争点にとどまらず、むしろ妊娠中絶や公立学校での進化論教育の是非、ＬＧＢＴの権利の擁護などの妥協が困難な文化的争点に拡大し、２１世紀に入ると予算の審議すら進まなくなるほどに深刻化しました。

この間、１９９０年代に民主党のクリントン政権が、経済的争点で市場重視の立場を受け入れたことで、経済的争点では保守が、文化的争点ではリベラルがやや優位な状況にありました。このため、前回も述べた通り、経済的には福祉政策の拡充を求めるが、文化的には伝統的な価値観を重視する白人労働者階級は、どちらの政党からもあまり配慮されずに政治不信を強めていきました。

さらに、２００８年の金融危機と政府による大企業や金融機関の救済は中間層以下の人々の強い怒りを買い、民主・共和両党では政治エリートを批判する草の根運動＝ポピュリズムが台頭し、共和党ではトランプがその受け皿に、民主党では民主社会主義者を自称するバーニー・サンダースやアレクサンドリア・オカシオ・コルテスといった政治家が有力視されるようになります。今や、共和党内では伝統的共和党を支持する勢力とトランプを支持する勢力が、民主党内ではバイデンを支持する勢力とサンダースを支持する勢力とがほぼ拮抗しており、アメリカ政治は左右の政党対立に加え、党内ではエリートと草の根運動という上下の対立を抱えた４つの党派に引き裂かれているのです。

わだい浪切サロン 第133回

マスターズスポーツ・プロモーションの期待と可能性

- 話題提供者　彦次 佳（和歌山大学教育学部 准教授）
- 日　　時　2022年1月19日（水）19:00～20:30
- 申込等詳細については、下記岸和田サテライトホームページをご覧ください。
- 岸和田サテライトホームページ　http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/kishiwada/
- 問合せ先　和歌山大学岸和田サテライト　TEL・FAX 072-433-0875